

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和6年 6月 28日

静岡県知事
鈴木 康友 殿

提出者

住 所 静岡県 磐田市 新貝2500番地

氏 名 ヤマハ発動機株式会社

代表取締役 日高 祥博

電話番号 0538-37-4194

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ヤマハ発動機(株) 磐田南工場
事業場の所在地	静岡県 磐田市天竜800番地
計画期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	輸送用機械器具製造業
② 事業の規模	製造品出荷額 6,760百万円
③ 従業員数	929名(正規社員、嘱託職員、期間社員、派遣社員 ※請負職場除く)
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>設備名:M1号排水処理装置 流入水⇒ ①調質層(COD処理)⇒ ②pH調整槽(フッ素処理)⇒ ③凝集槽(金属水酸化物等凝集沈殿処理)⇒ ④沈殿槽(上澄み水とスラリー分に分離)⇒ ⑤中和槽(処理水の中和処理)⇒ ⑥砂ろ過機(微粒子捕捉)⇒ ⑦活性炭塔(COD、BOD成分吸着)⇒ ⑧放流</p>

(日本産業規格 A列4番)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

環境組織部会 部会長：鈴木 敦 部長
 環境事務局：菅野 敏 課長
 廃棄物委員長：下條 泰広 課長
 該当職場推進基幹職：下條 泰広 課長
 該当職場推進委員：大杉 竜志 工長
 該当職場職長：片山 明夫 職長
 オペレーター 青木 寿夫

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

		【前年度（令和 5年度）実績】	
①現状	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	排出量	474.06 t	t
	(これまでに実施した取組) 該当する設備（ボイラー設備）の稼働時間を削減、3台の内1台を24h/日⇒稼働停止させ、アルカリ排水量を抑制中。		
②計画	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	排出量	950 t	t
	(今後実施する予定の取組) ①安定したpH調整が出来る設備へ改造し、廃水処理場内でpH調整されたものを放流し、外部委託処理を減らす。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別不可、現状行っていない
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別の予定なし

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 現状行っていない		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用の計画はなし		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	500 t	t
(これまでに実施した取組) pH調整を行った処理水を、工場敷地内にある別処理場へ送水し、再調整し放流を行っている			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	950 t	t
(今後実施する予定の取組) アルカリ排水の中和装置の能増を行い、通常排出分100%処理を行うように改善する。			

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	自ら埋立処分を行つた特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	全処理委託量	474.06 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	474.06 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	アルカリ脱脂液	
	全処理委託量	450	t
	優良認定処理業者への処理委託量	450	t
	再生利用業者への処理委託量	0	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t
	(今後実施する予定の取組)		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	476.412	t
	(今後実施する予定の取組等) アルカリ脱脂液を含む排水の廃水処理場を改造し、廃水処理場内で調整されたものを放流し、外部委託処理を減らす。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。